



万松院の山門(左)

日本遺産 Japan Heritage

Vol.
3

「国境の島 壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」 万松院の三具足(対馬市)

1615年に対馬藩の初代藩主・宗義智を祀る墓所として建てられた万松院。宗家代々の菩提寺として義智以降14人の藩主とその正室や側室、朝鮮外交で功績をあげた人物が祀られていて、日本三大墓地の一つともいわれています。

古代から、地理的に近い朝鮮と交易を行ってきた対馬にとって、豊臣秀吉による朝鮮出兵(文禄・慶長の役)で断絶された日本と朝鮮の国交回復はまさに死活問題でした。義智をはじめとする対馬藩は、日朝貿易再開を最重要課題と掲げ、朝鮮へ使者を何度も送り、国書を偽造するなどの危険を冒しながら両国の関係修復に奔走しました。

万松院の本堂には、朝鮮国王より奉納されたと伝えられる祭礼用の三具足(仏具)があり、対馬と朝鮮が緊密な関係だったことがうかがえます。本堂の脇から百雁木と呼ばれる石段を登ると、樹齢1200年ともいわれる3本の杉に見守られた宗家の墓石が並んでいます。



日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として文化庁が認定するもの



青銅製の祭礼用三具足
(左から花瓶・香炉・燭台)



132段の石段が連なる百雁木

問合せ 県の文化振興課 ☎095-895-2762

日本遺産 国境の島

検索